

令和4年度病虫害発生予察予報第9号（12月）

令和4年12月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、平年並(中西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西、西) <u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央) やや少(中西)、少(中央、西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西)、やや少(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	平年並(中央)、やや少(東)、少(西) 平年並(東、西)、やや少(中央) 平年並(中央、西)、少(東) 平年並(中央)、少(東、西) <u>やや多(東、中央)</u> 、少(西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	平年並(中央)、やや少(東)、少(中西) <u>やや多(東、中西)</u> 、やや少(中央) <u>多(東)</u> 、平年並(中西)、少(中央) 平年並(中央、中西)、少(東) <u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(中央、中西)</u> 、平年並(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	少(中央) <u>多(中央)</u> 平年並(中央) <u>やや多(中央)</u>

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台12月 1 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞12月 3 日から 1 月 2 日

寒気の影響を受けにくいとため、気温は平年並か高いでしょう。

向こう 1 か月気温は、平年並、高い確率とも 40％です。降水量は、多い確率 40％です。日照時間は、少ない確率 40％です。

週別の気温は、1 週目と 2 週目は、平年並の確率 50％です。3 ～ 4 週目は平年並、高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	20	40	40	
		降水量	30	30	40	
		日照時間	40	30	30	

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	20	50	30
2 週目		30	50	20
3 ～ 4 週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1 か月：12月 3 日（土）～ 1 月 2 日（月）

1 週目：12月 3 日（土）～12月 9 日（金）

2 週目：12月10日（土）～12月16日（金）

3 ～ 4 週目：12月17日（土）～12月30日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（西部）、平年並（中西部）

根 拠

(1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部では平年並、中西部でやや少なかった。発病程度は中央部、西部で平年よりも高く、中西部でやや低かった。

(2)本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。12月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想されていることから、既発ほ場では病勢が進展すると思われる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によるハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部、西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりやや多く、中西部と西部で平年並であった。発病程度は中央部で平年より高く、西部で平年並、中西部でやや低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展は緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤の防除効果は、上位葉への進展状況で判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや多（中西部、西部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部と西部では平年並、中央部では平年より少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、中西部で平年並、西部では低かった。
- (2) 11月の気温が高めで推移したため、野外からの媒介虫の飛び込みが例年よりも長く続いたと予想されることから、12月に入っても感染株の発病が続くと考えられる。一方で、気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの野外から施設内への飛び込みがなくなることから、その後の発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、中央部で平年よりやや少なかった。発生程度は中央部で平年よりもやや高く、中西部で平年並であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（西部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多

く、西部ではやや多く、中西部では平年並であった。発生程度は中央部で高く、中西部と西部ではやや低かった。

- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）、少（西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は中央部で平年並、東部で平年よりやや少なかった。発病程度はいずれの地域も平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：平年並（東部、西部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部と西部で平年並、中央部では平年よりやや少なかった。発病程度は中央部と西部で平年並、東部では平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。ただし、12月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想されていることから、既発ほ場では発病の増加に注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：平年並（中央部、西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積はいずれの地域とも平年並であった。発病程度は中央部で平年並、西部では平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。ただし、12月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想されていることから、既発ほ場では発病の増加に

注意する。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は中央部でやや多く、東部では平年より少なかった。発生程度は東部で平年並、中央部では平年よりやや低かった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部、中央部）、少（西部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積はいずれの地域とも平年より多かった。発生程度は中央部で平年より高く、東部で平年並であった。
- (2)気温の低下とともに増殖が緩慢となり、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1)11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は西部で平年より高く、東部で平年並、中央部で低かった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）、少（中西部）

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、東部でやや少なく、中西部で少なかった。発病程度は中央部で平年並、その他の地域では低かった。

(2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：やや多（東部、中西部）、やや少（中央部）

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中西部で平年よりもやや多く、中央部ではやや少なかった。発病程度はいずれの地域も平年よりも高かった。

(2) 低温期は病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部）、平年並（中西部）、少（中央部）

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は、中西部で高く、東部で平年並、中央部では低かった。

(2) 気温の低下とともに病勢進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県果全域で発生が見られ、発生面積は中央部と中西部で平年よりもやや多く、東部では少なかった。発生程度は、中央部で平年よりも高く、中西部でやや低く、東部で低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場で天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より多かった。発生程度は、県中央部で平年よりも高く、東部と中西部で低かった。
- (2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となり、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部、中西部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年よりも多く、東部ではやや多かった。発生程度は、東部と中西部で平年よりも高く、中央部では低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、多くのほ場で天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生は確認されなかった。
- (2) 低温期は病勢の進展が緩慢となるため、発生の増加は少なく、少発生の状態で推移すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)11月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は平年よりも高かった。
- (2)低温期は病勢の進展が緩慢となるため発生の増加は少ないものの、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1)11月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりやや低かった。
- (2)本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入はなくなることから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1)11月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入はなくなることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.